

第5回スラブ・ユーラシア研究東アジア・コンフェレンス開催さる

去る8月9-10日、第5回スラブ・ユーラシア研究東アジア・コンフェレンスが、大阪経済法科大学で開催された。この催しは2008年2月にソウル大学で行われた日中韓のスラブ研究全国組織（日本でいえば JCREES）のサミット決定に基づいて、東アジア諸国の持ち回りで開催されているものである。第1回（2009年）は札幌、第2回（2010年）はソウル、第3回（2011年）は北京、第4回（2012年）はコルカタで開催された。今回、開催国を一巡し、日本に戻ってきたものである。組織委員会の委員長は大阪経済法科大学の藤本和貴夫学長、事務局長は大阪大学のヨコタ村上孝之、そのほか組織委員は天理大学の五十嵐徳子、慶応大学の大串敦、および北海道大学の松里公孝であった。

本コンフェレンスは、大阪経済法科大学の手厚い援助、京都・高野山などの観光名所を近隣に抱える大阪の地の利、また過去4回の東アジア・コンフェレンスに比べれば準備期間が長く、

Call for Proposals が適切な時期（2012年10月）に発表されたことなどから、過去最大の参加者に恵まれた。37のパネルが組織され、111名が報告した。出席者の総数は、153名であった。報告者の国別構成（国籍ではなく勤務国）は下記の通り。

日本	—49
中国	—15
韓国	—8
ロシア	—8
イギリス	—5
カザフスタン	—5
フィンランド	—5
アメリカ	—3
スウェーデン	—3

そのほかモンゴル、カナダ、チェコ、フランス、ドイツ、ポーランド、ベラルーシ、オーストラリア、台湾、クルグズスタンから1名ずつが報告した。

開会式では、藤本和貴夫組織委員長、沼野充義 JCREES 代表幹事、グラム・ギル ICCEES 会長、ナイル・ラティポフ在大阪ロシア総領事が挨拶し、ヨコタ村上事務局長から組織報告が行われた。

コンフェレンスを記念する講演会が初日の夕刻に行われ、沼野充義東京大学教授、望月哲男北海道大学教授（センター）が、それぞれ、「カモメは宇宙に行き、春樹はサハリンに行く：ロシアと日本の間の越境と文化の相互作用」、「比較しがたいものの比較：ユーラシア地域大国比較プロジェクトから我々が学んだもの」という演題で講演した。

東アジア・コンフェレンスが過去最大の規模で成功したことは、2年後に幕張で行われる ICCEES 世界大会に向けての重要なステップとなるであろう。このコンフェレンスのプログラムは、<http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/jcrees/text/2013OSAKAProgramLastall.pdf> で見ることができる。

なお、2014年のスラブ・ユーラシア研究東アジア・コンフェレンスは、6月にソウルで行われることが決まっている。Call for Proposals も近いうちにネット上で発表されるはずである。



開会式で挨拶するグラム・ギル ICCEES 会長と
藤本和貴夫・コンフェレンス組織委員長
(大阪経済法科大学学長)